

目的

本ワークショップは、小豆島土庄町を中心にフィールドワークを行い、成果物として生活景(生活資源)に関する情報地図を製作する。

参加者

参加者は香川大および都市圏大学の芝浦工業大、津田塾大の3大学、およびチェンマイ大(香川大学への短期留学)のうち、表のとおり28名の学生が参加した、学生の構成は、4年生が、20名、大学院修士1年が2名、大学院修士2年が6名参加した。

芝浦工大	香川大	チェンマイ大	計
16名	4名	8名	28名

表 参加学生内訳

日程概要

8月4日(日)	11:45 土庄港到着 13:00-18:00 瀬戸芸作品の鑑賞、フィールド調査 20:00 合同ゼミ 22:00
8月5日(月)	9:00 四海漁協でのフィールド調査 12:00 瀬戸芸作品の見学 13:00 まち歩きおよび情報地図作成ワークショップ 16:00
8月6日(火)	午前 地図作成 午後 解散



プログラム(フィールドワーク・まちあるき)



・土庄町四海漁港で水揚げされるハモは、『小豆島 島鯉』として、土庄町四海漁業協同組合が中心となってブランド化が、六次産業化が進められている。現地調査、インタビュー調査を実施。

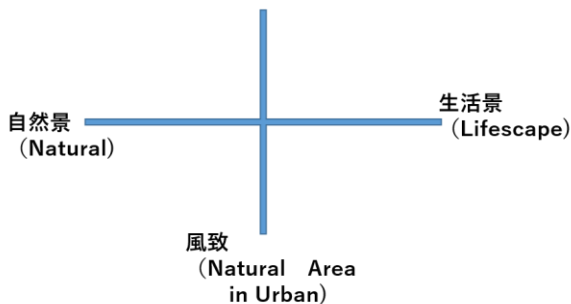
生活景マップづくりの着目点

生活景(Lifescape)=生活環境の眺め

- ①継承されている場所
- ②住民の営み、人柄、活動
- ③生活する上で実用性の高い場所

生活景の位置づけ

景観・美観 (Landscape Beautiful)



プログラム(フィールドワーク・合同ゼミ)



プログラム(地図作成ワークショップ)



成果物



学生の声

専門分野が違う学生同士が、共通のテーマでフィールドワークを行い、成果物を作ることはとても刺激になりました。(香川大学4年)